

苦難の体験 伝える

「被爆・終戦70年の回顧 瓊林会有志による記録」

瓊林会・発行

公益社団法人瓊林会(宮脇雅俊会長)は長崎大経済学部とその前身である長崎高等商業学校、長崎経済専門学校と同窓生で組織。今回、被爆70年の節目を記念して有志を募り編集、発行した。

被爆50年にあたる1995年6月発行の「原子雲の青春」に続く2冊目の記録集。被爆者の高齢化による

体験継承が課題となる中、同窓生たちの苦難の体験を記録にとどめようと協力を呼び掛け、28人から31編の貴重な体験記と数枚の写真が集まった。

回顧は、被爆の惨状と救助活動、戦後の苦難の生活動員先での職場体験や上海など外地での生活と多岐にわたる。被爆者救助に奔走する姿、戦時の統制や戦後の食糧難による貧しい生活などに、当時の若者の思いがにじむ。「これからの平和な世にいくばくとも資することができますことを念願する(序にかえて)」と記す。

長崎ゆかりの本

被爆・終戦70年の回顧

瓊林会有志による記録



長崎高等商業学校卒業
長崎経済専門学校卒業
長崎大平経済学部卒

A5判、204ページ。300部印刷、寄付金として千円。問い合わせは瓊林会事務局(095・821・4567)。

(阿部成人)